第３号様式

（第１面）

事業活動地球温暖化対策結果報告書

（あて先）川崎市長

郵便番号　212-0058
住　　所　川崎市幸区鹿島田1-1-2
氏　　名　三菱ふそうトラック・バス株式会社
取締役社長(CEO)　Albert Kirchmann　印

（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第１０条第１項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名又は名称	三菱ふそうトラック・バス株式会社			
主たる事務所又は事業所の所在地	川崎市幸区鹿島田1-1-2			
該当する事業者の要件	☑ 規則第４条第１号該当事業者			
	☐ 規則第４条第２号該当事業者			
	☐ 規則第４条第３号該当事業者			
	☐ 規則第４条第４号該当事業者			
	☐ 上記以外の事業者（任意提出事業者）			
主たる事業の業種	大分類	E	製造業	
	中分類	31	輸送用機械器具製造業	
主たる事業の内容	ﾄﾗｯｸ・ﾊﾞｽ、産業用ｴﾝｼﾞﾝ等の開発、設計、製造、販売、輸出入、その他取引業			
事業者の規模	☑ 原油換算エネルギー使用量		34,006	ｋｌ
	☐ 自動車の台数			台
	☐ エネルギー起源の二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出の量			$t-CO_2$
連絡先	担当部署	担当部署名	企業渉外・環境部	
		所在地	川崎市幸区鹿島田1-1-2	
	電話番号		044-330-7700　（代表）	
	ＦＡＸ番号			
	メールアドレス			

※受付欄		※特記事項	※事業者番号

計画期間及び報告年度	平成22年度　～　平成24年度　（報告年度平成24年度分）
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添　指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添　指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添　指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添　指針様式第2号のとおり
備　　考	

備考　１　欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
　　２　□のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
　　３　報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
　　４　※印の欄は記入しないでください。
　　５　氏名（法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

様式第２号　　（第1面）

事業活動地球温暖化対策結果報告

１　温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第１号、第２号、第４号該当者等）

（１）温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

ア　計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第１年度	第２年度	第３年度	目標排出量
排出量	(実) 90,261 t-CO_2 (調) 84,442	(実) 63,440 t-CO_2 (調) 58,694	(実) 67,486 t-CO_2 (調) 62,420	(実) 63,744 t-CO_2 (調) 59,245	(実) 87,553 t-CO_2
削減率		(実) 29.7 % (調) 30.5	(実) 25.2 % (調) 26.1	(実) 29.4 % (調) 29.8	(実) 3.0 %

イ　計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の活動量	生産額		単位	t-CO2/百万円	
	基準年度	第１年度	第２年度	第３年度	目標年度の値
排出量原単位等の値	0.1372	0.1646	0.1407	0.1251	0.1331
削減率		-20.0 %	-2.6 %	8.8 %	3.0 %

ウ　計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第１年度	温室効果ガスの排出量については、温室効果ガス削減への取り組みに加え、生産量の減少により２直操業（昼夜２交代）の１直化を行う等の対応を取ったことで、排出量も大幅な減少となった。 温室効果ガスの排出量原単位については、生産効率の悪化があり、生産量及び生産額の減少の幅に対し、排出量の減少の幅が小さい状況となり、結果原単位は大きく悪化した。
第２年度	温室効果ガスの排出量については、温室効果ガス削減への取り組みに加え、基準年度より生産量が低い状況であったこともあり、減少となった。 温室効果ガスの排出量原単位については、基準年度に比べると効率が悪い状況であり、生産額（生産量）の減少の幅に対し、排出量の減少の幅が小さい状況となり、原単位は基準年度の値を下回ることができなかった。
第３年度	温室効果ガスの排出量については、温室効果ガス削減への取り組みに加え、生産量は増加したがラインの減少等により、排出量も減少となった。目標排出量についても温室効果ガス削減への取り組みに加え、生産ラインの見直しによる減少があり、対基準年度比3%の低減目標を達成した。 温室効果ガスの排出量原単位については、生産量及び生産額の増加に対し、排出量が減少した為、結果原単位は前年を下回ることができた。目標原単位についても、生産量及び生産額の増加に対し排出量の減少が大きく、３年度目には対基準年度比3%の低減目標を達成した。

（２）温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

温室効果ガスの排出量については、前年度に比べて生産量（生産額）は増加したのに対し、排出量を減少させることができ、対基準年度比3%の低減目標を達成した。
また温室効果ガスの排出量原単位についても、対基準年度比3%の低減目標を達成した。

３　温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

（１）温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等（第１号、第２号、第４号該当者等）	計　画	・外部機関の利用等による実態把握と対策実施の充実 外部専門家による省エネルギー診断等の実施 ・主要設備等の保全管理の徹底 主要設備等の管理標準の作成・見直し ・設備新設、更新等における措置 外気冷房制御等の採用拡大 ・新工場建設に際し、未利用エネルギーの地中熱を活用したヒートポンプ式空調設備を採用 地中熱利用空調システム採用
	第１年度	・外部専門家による省エネルギー診断等の実施･･･外部による吸収式冷凍機の 性能診断を実施している ・主要設備等の管理標準の作成・見直し･･･順次見直し、作成を行っている ・外気冷房制御等の採用拡大･･･更なる採用へ向け、検討している ・地中熱利用空調システム採用･･･新工場完成に伴い、地中熱利用空調システムの使用を 開始した ・遮熱フィルムの貼付を一部で実施している ・Ｈｆ蛍光ランプを一部で導入している
	第２年度	・外部専門家による省エネルギー診断等の実施･･･外部による吸収式冷凍機の 性能診断を実施している ・主要設備等の管理標準の作成・見直し･･･順次見直し、作成を行っている ・外気冷房制御等の採用拡大･･･更なる採用へ向け、検討している ・遮熱フィルムの貼付を継続して実施中（範囲拡大） ・Ｈｆ蛍光ランプを継続して導入中（範囲拡大） ・ボイラーブローバルブ清掃に伴い、熱損失防止対策を実施 ・生産ライン照明の一部及び社員通用門照明のLED化を実施
	第３年度	・外部専門家による省エネルギー診断等の実施･･･外部による吸収式冷凍機の性能診断を実施している ・主要設備等の管理標準の作成・見直し･･･順次見直し、作成を行っている ・外気冷房制御等の採用拡大･･･更なる採用へ向け、検討している ・遮熱フィルムの貼付を継続して実施中（範囲拡大） ・Ｈｆ蛍光ランプを継続して導入中（範囲拡大） ・ボイラーブローバルブ清掃に伴い、熱損失防止対策を実施 ・生産ライン照明の一部及び社員通用門照明のLED化を実施 ・機械工場（8機）の照明老朽更新に合わせ効率化照明器具を設置 以上の施策にについては一部実施中のものもありますが、計画に対しては実施済となります。
自動車等（第３号該当者等）	計　画	
	第１年度	
	第２年度	
	第３年度	

（２）再生可能エネルギー源等の利用実績

ア　再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

太陽光発電設備導入を決定した。 （導入時期：2014年1月予定，売電用，340kW）

イ　計画期間の再生可能エネルギー源等の利用実績

設備等の種類	概要(規模、導入場所、性能等)	導入年度	備考
地中熱	規模：36kW　導入場所：川崎工場（第一敷地）	平成22年	導入済

ウ　計画期間の再生可能エネルギー源等の価値の保有実績

種　　類	概要(規模、場所等)	保有年度	備考

４　他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計　画	なし
第１年度	なし
第２年度	なし
第３年度	なし

５　その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計　画	・弊社の製品であるトラック・バスは使用中の二酸化炭素排出量が多い製品であるため、積極的な燃費向上に取り組んでいる。その一例としてハイブリッドトラック・バス、尿素還元式ＳＣＲ、エコドライブ支援システム等を開発・商品化している。また、取引先にエコドライブの実施を書面にて依頼し、輸送に関する二酸化炭素削減にも取り組んでいる。（エコ運搬制度） ・交通エコロジー・モビリティ財団認定を受けトラックのエコドライブ講習を実施している。 ・二酸化炭素削減のため、廃棄物の削減、分別の徹底に取り組んでおり、全工場の合計で99%以上のリサイクル率を達成している。 ・省燃費運転についてホームページで公開している。 ・かわさき地球温暖化対策推進協議会に川崎工業振興倶楽部のメンバーとして参加している。
第１年度	・大・中・小型トラック及び大型トラックにて燃費向上とクリーンな排気ガス性能の両立を図った商品を発売した。 ・トラックのエコドライブ講習を引き続き実施した。 ・生産におけるリサイクル率99%以上を引き続き達成した。 ・川崎市エコ運搬制度に従い、取引先へのエコドライブの実施を依頼した。
第２年度	・一層の燃費向上とクリーンな排気ガス性能の両立を図った小型トラック（新型キャンターエコハイブリッド）を開発、発表した。(発売は2012年5月) ・大型ハイブリッドトラック（スーパーグレートエコハイブリッド）及び大型トラック向け低燃費技術を開発、発表した。 ・取引先へエコドライブ実施を依頼した。（川崎市エコ運搬制度） ・トラックのエコドライブ講習を引き続き実施した。 ・生産におけるリサイクル率99%以上を引き続き達成した。
第３年度	・小型ハイブリッドトラックの新型車を発売したのをはじめ、燃費向上とクリーンな排出ガス性能を両立させた新商品を発表・発売し、ラインナップの拡充を図った。 ・取引先へエコドライブ実施を依頼した。（川崎市エコ運搬制度） ・トラックのエコドライブ講習を引き続き実施した。 ・生産におけるリサイクル率99%以上を引き続き達成した。

６　前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

（１）事業者単位

ア　第１号、第２号、第４号該当者等

（実）	66,149	$t-CO_2$
（調）	66,097	

イ　第３号該当者等

（実）		$t-CO_2$
（調）		

（２）事業所等単位（第１号、第２号該当者等）

ア　年間の原油換算ｴﾈﾙｷﾞｰ使用量が 1,500kl 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類細分類番号	事業所に係る事業の名称	温室効果ガスの排出の量
川崎製作所	中原区大倉町10	3111	自動車製造業（二輪自動車を含む）	64,179 $t-CO_2$
				$t-CO_2$
				$t-CO_2$
				$t-CO_2$

イ　年間の原油換算ｴﾈﾙｷﾞｰ使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類細分類番号	事業所に係る事業の名称	温室効果ガスの排出の量
東扇島モータープール	川崎区東扇島23-1	3111	自動車製造業（二輪自動車を含む）	1,426 $t-CO_2$
				$t-CO_2$
				$t-CO_2$
				$t-CO_2$

ウ　年間の原油換算ｴﾈﾙｷﾞｰ使用量が原油換算で 500kl 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500kl 未満	
300～400kl 未満	
200～300kl 未満	1
100～200kl 未満	
100kl 未満	

（３）事業所等単位（第４号該当者等）

ア　物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000ｔ以上（二酸化炭素の場合はｴﾈﾙｷﾞｰ使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類細分類番号	事業所に係る事業の名称	温室効果ガスの排出の量
				$t-CO_2$
				$t-CO_2$
				$t-CO_2$
				$t-CO_2$

イ　物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000ｔ未満（二酸化炭素の場合はｴﾈﾙｷﾞｰ使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	